



# 鶏 鳴

けいめい

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

## パウロの言葉

「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」

### 聖書 (第1コリント書11章24節)

牧師 河合裕志

イエスが十字架につけられる前の晩に「最後の晩餐」をとったことは4つの福音書とこの第1コリント書11章の5箇所に記載している。この中で一番早く書かれたのが第1コリント書で紀元の50年代。だから一番信頼できる記述かも。

パウロはイエスの直弟子ではないので最後の晩餐には出席していない。その模様は出席者のペトロ等から聞いたことになる。上記の言葉の前に次の言葉をパウロは伝え聞いていた。「主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、『これは、あなたがたのためのわたしの体～』」。

「引き渡される夜」とはこの数時間後にイエスが逮捕されることを言っている。そしてその後十字架につけられることを見越してこの挙に出た。丸い平ぺったいパンを裂いて弟子達に与えて『これは～』と述べた。それは次の意だろう。「この裂かれたパンはあなたがたのために十字架につくわたしの体を表しているよ。今後この十字架・犠牲を忘れないように、それを思い出すようにわたしの記念・メモリアルとして行ってほしい」。

それからパウロはこのあと次の記述を残

している。「また、食事の後で、杯も同じようにして、『この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました」。多分大き目の杯を回し飲みした。茶道の濃い茶のように。(千利休はイエスのやり方を真似たかも)。

イエスは次のつもりでその仕草をしたのだろう。「この杯、ぶどう酒はわたしの犠牲の血を表しているよ。この血によって新しい契約が確立される。従来律法を守り行うことで罪の赦しと永遠の命が得られるという古い約束ではなく、あなたがわたしの犠牲を自分のためと信じ受け入れることによってそれが得られるという新しい約束だ」。

以来教会は2千年の間、パンとぶどう酒を頂く儀式=聖餐式を守って来た。①イエスの犠牲を忘れないために。②聖餐はイエスの想起と共に今も復活して生きているイエスと交わるという意味合いがある。聖霊の助けを祈りつつ、信仰をもってパンを食べ、ぶどう酒を頂く程に生けるイエスがわが内に入って来てくれる、宿ってくれる。これは誠に感謝なこと。

私は世の多くの人々が聖餐に陪席できるよう祈っている。

#### 集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

中高青年会：日曜日礼拝後

聖書を学び祈る会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時

お話し会、(面談)：水曜日午後1時～7時